

## 令和4年度 第1回 旭区教育会議 会議録

1 開催日時 令和5年2月17日（金） 18時30分から19時35分まで

2 開催場所 旭区役所3階 第2・3会議室

3 出席者

（委員）

笹田 浩志 議長、鎌田 美喜子 副議長、齋藤 英里 委員、笹寄 真也 委員、  
長谷川 能一 委員、宮城 真由美 委員、吉本 雅裕 委員

（学校）

山本 隆 新森小路小学校長、赤坂 寛臣 今市中学校長

（教育委員会事務局）

荒井 慶彦 指導主事、長谷部 直之 指導主事、直本 香苗 指導主事

（旭区役所）

東中 秀成 旭区担当教育次長、小山 良彦 総務課長、  
山田 浩美 旭区教育担当課長、松原 俊幸 地域課長、  
大前 孝則 防災安全課長、長谷村 充弘 窓口サービス課長  
佐野 雅哉 保健子育て課長、戸田 裕之 生活支援課長

4 議事

1 開会

2 議長・副議長の選出について

3 議題

区の教育等関係事業について

- ・令和4年度の実績
- ・令和5年度の実績予定

5 議事内容

○田窪係長

では、定刻となりましたので、ただいまより令和4年度第1回旭区教育会議を開会いたします。

本日は、ご多忙の中、ご出席いただきありがとうございます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます教育政策課担当係長の田窪でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会議開催に当たりまして、旭区担当教育次長よりご挨拶申し上げます。

○東中区長

寒い中、お忙しい中、特に地域の皆様方には、お越しをいただきまして本当にありがとうございます。いつも旭区のことで様々にお世話になっておりまして、まず冒頭、感謝を申し上げたく存じます。

また、小学校、中学校の幹事校の山本先生、赤坂先生もお運びをいただきましてありがとうございます。

また、市の教育委員会事務局のほうからも今日はご臨席をいただいております。感謝申し上げます。

私ども区は、申すまでもないことですが、区長という面と加えて教育次長という役職も兼務でいただいております。教育次長と申しましても局の教育次長とはちょっと立場が違っております。区の中の義務教育、小学校、中学校の運営等に関して、区政を推進する中で、学校さんの現場のほうで手が回り切らないという面もあろうかと思っております。その中で、私どもなりに、何か子どもさんたちにとって良かれというようなところの補完、補足をさせていただければと、そうした面で兼務の教育次長、副区長は兼務の教育の部長、そしてまた企画課長は兼務の教育の課長という職務をいただいて、学校さんとともに子どもさんたちにとって良かれというところの補完をさせていただく、そうした行政の面も、私ども持たせていただいております。本日は、そうした点から4年度についての振り返りと、そしてまた5年度に向けた取組というところで、様々にご議論を賜ればと思うところでございます。

旭区は温かい地域といつも申し上げるのですが、何が温かい。人が温かい、人がというのは体温ということではなく、心が温かいということでございます。地域の皆様方のお支えと見守りの下、また、学校さんのほうでも本当に心を込めた丁寧な教育を子どもさ

んたちにしていただける。また、子ども行政も様々に、福祉、児童、いろんな面からも総合的に子どもさんたちに関わりを持たせていただきながら、すくすくと育っていてもらえるように取り組む。そうしたところでございます。

本日も議論いただく内容で、特に5年度に向けてというところですが、これは先だって区政会議のほうでも申し上げたことですが、区民の皆さん、とりわけ子どもさんたちにとって、寄り添い、支えさせていただく教育施策があまりころころと変わると混乱が生じます。何も保守的であるべしという意味ではございませんでして、施策の連続性なり継続性といったことは、やはり行政としては良い意味で踏まえさせていただく必要があるのかなと、そのように子どもなりに議論を内部的にも深めたところでございます。

とともに、この間、約3年間、コロナで様々なところの時計の針が止まっていたような状況がございました。一方で、時代、社会の進展に合わせて変化が起きている面もございますし、また、とりわけ地域の皆様、学校さんの様々なご協力によりまして、おかげさまで成果、効果が出ている点もございます。4年度のそうした状況も踏まえながら、5年度において取組を継続する点、新しくする点、少し変えさせていただく点、そうしたところを学校さんと力を合わせていただきながら、区内の子どもさんたちにとって良かれというところを、本日も説明をさせていただければと思っております。

地域の皆様方におかれましても、普段からの子どもさんたちの見守り、重ねて感謝を申し上げますとともに、5年度、子どもさんたちにとっても良かれというところを、ぜひ本日、様々なご意見を頂戴できたらと存じております。

本日も忙しい中、本当にありがとうございます。これからしばらくよろしくお願い申し上げます。

○田窪係長

次に、本日の教育会議の運営についてでございますが、コロナ対応のため換気などを十分に行ってまいります。委員の皆様には、マスクの着用や手指の消毒、検温等、ご理解、ご協力を賜りありがとうございます。

また、会議中マイクを使用される場合は、配布させていただいておりますビニール手袋をご使用いただきますようお願いいたします。

まず、当会議は公開としておりまして、後日会議録を公開することとしております。そのため会議を録音させていただいておりますので、マイクを使用してのご発言にご協力をお願いいたします。

本日お配りしております資料は、次第に記載のとおり、資料1から5となっております。

それでは、今回は委員改選後初めての会議になりますので、お配りしております出席者名簿に従いまして、お名前と地域、所属団体名等のみでも結構ですので、簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。

では、すみません、鎌田委員のほうから順番にお願いいたします。

#### ○鎌田委員

皆さん、こんばんは。私、子ども会の代表で今回出席させていただきました。数年前、この会議に参加させていただいて、ちょっと2年間という空白を経てまた再度ということで参加させていただいたんですけれども、私も一応20年近く子どもたちに学校のほうで携わっていきまして、いろんなお子さんを見させていただいて、やっぱり子どもが成長するのをすごい楽しみにしているので、この会議がよりよい会議になりますように願っておりますので、またよろしくをお願いいたします。

#### ○齋藤委員

こんばんは。今回から初めて参加させていただきます大宮地区民生委員長、齋藤でございます。先日、神戸の被害者のニュースがありまして、ちょうどあの神戸の事件がありましたときに心の教室というのが2中学校でありまして、そのとき、私、心の教室の主任児童委員でしたので、心の教室の相談員になっていました。休み時間には子どもたちが来て愚痴を言って、ほとんど女の子なんですけど、愚痴を言ったりして、数年でもう予算がないということで終わってしまったんですけれども、あの頃をちょっと振り返ってみたものです。

それから、学び舎のほうも発足したときからさせていただいております。

また、子どもたちに夢を持ってもらえるように、夢のない子が結構多くて、夢を持って何でもやればできるというようなことができたらいかなと思います。よろしくお願いします。

#### ○笹寄委員

すみません。旭区青少年指導員連絡協議会の会長の笹寄と申します。子ども会のほうの副会長もさせていただいております。

私も初めてこの会議に出席することになりますので、またちょっと勉強させていただきたいと思います。成人式のほうでは、また皆様方、ご協力いただきましてありがとうございます。無事に終わりました本当によかったと思っております。失礼させていただきます。

○笹田委員

旭区PTA協議会の会長をしております笹田といいます。よろしくお願いします。

地域としては高殿地域でしております、子どもたちの見守り活動とかを含めて皆さんにご協力いただいたり、区についてはいろいろと活動していただいたり、ありがたいと思っております。

また、今日の会議がよりよくなるように努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

○長谷川委員

今回初めて委員になりました長谷川といいます。

私は、ここに書かれている民生委員と、それから私は高殿小学校区ですので、はぐくみネットのほうのコーディネーターをしております。それと小学校のほうの施設開放委員長ということになっております。それ以外にも、高殿7町会の町会長を兼ねてしておりますし、あとご存じのようにスポーツ推進委員のほうの代表もしております。

私の思っておりますのは、学校は、学びがいがあるという、子どもに思ってもらえるような学校で、また先生にとっては働きがいのあるような小学校、中学校というように、地域としては頼りがいのある小学校とか誇りが持てる小学校、中学校というようになっていけたらいいかなというように思っておりますので、またこれからどうぞよろしくお願いします。

○宮城委員

中宮から参りました宮城真由美と申します。よろしくお願いいたします。

現在は太宮西小学校区のはぐくみネットでコーディネーターをしております。以前はですけれども、子ども会とかPTAとか、あと青少年指導員のほうも8年ほど、2、3年前までやっておりました。今回初めてこれに参加させていただくんですけれども、ちょっと内容も難しそうですけれども、いろいろ勉強させていただきながら、でも子どもたちのために旭区がよりよい区になればいいなと思っておりますので、これからよろしくお願いいたします。

○吉本委員

こんばんは。生江から参りました吉本といいます。ここにおけるメンバー、結構顔見知りばかりなんですけど、子ども会の副会長とか民生委員もさせてもらっています。20年ぐらいからPTAのほうにちょっと関わってまして、それからずっと子どもにちょっと

ですけど関わってきました。その当時と今の子どもの現状もまた違うと思いますので、最近の子どもの接し方ですね、これから勉強していきたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

○田窪係長

皆様、ありがとうございました。

続きまして、オブザーバーとしてご出席いただいております皆様、山本校長先生よりお願いいたします。

○山本校長先生

こんばんは。新森小路小学校校長の山本隆でございます。本年度は旭区の小学校の幹事校長というのを仰せつかっております、この会議に出席させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○赤坂校長先生

失礼します。今市中学校の校長の赤坂でございます。私のほうは中学校の区の幹事ということで参加させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

○荒井指導主事

こんばんは。大阪市教育局指導部第2教育ブロック、旭区の小学校を担当しております荒井と申します。本日どうぞよろしくお願いいたします。

○長谷部指導主事

こんばんは。同じく大阪市教育局指導部第2教育ブロックで旭区の小学校を担当しております長谷部直之と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○直本指導主事

こんばんは。同じく大阪市教育局指導部第2教育ブロックグループで旭区の中学校を担当しております直本でございます。本日どうぞよろしくお願いいたします。

○田窪係長

皆様、ありがとうございました。

では最後に、区役所職員となりますが、小山課長です。

○小山課長

総務課長の小山と申します。どうぞよろしくお願いします。

○山田課長

こんばんは。企画課長兼区教育担当課長の山田です。このたびはご就任いただき本当に

ありがとうございます。今日もよろしくお願いいたします。

○松原課長

地域課長、松原です。どうぞよろしくお願いいたします。

○大前課長

皆さん、こんばんは。防災安全課長の犬前です。よろしくお願いいたします。

○長谷村課長

こんばんは。窓口サービス課長、長谷村と申します。就学事務の担当をしております。  
よろしくお願いいたします。

○佐野課長

皆さん、こんばんは。お忙しい中、ありがとうございます。私は保健子育て課長の佐野と申します。よろしくお願いいたします。

○戸田課長

生活支援課長の戸田と申します。よろしくお願いいたします。

○田窪係長

それでは、議事に入らせていただく前に、今回、委員改選後初めての会議になりますので、旭区教育会議開催要綱第6条第1項に基づきまして、委員の皆様方の互選により議長及び副議長の選出をお願いしたいと存じます。

ではまず、議長についてご意見ございませんでしょうか。

長谷川委員、お願いします。

○長谷川委員

私のほうからちょっと推薦というか、昨年から委員していただいておりますし、旭区のPTA協議会の会長をされている笹田さんのほうに議長のほうをしていただくというように提案したいと思うんですけども、いかがでしょうか。

○田窪係長

ありがとうございます。ただいま長谷川委員より笹田委員をお願いしてはどうですかというご意見ございましたけれども、ほかにご意見はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

特にご意見ないようですので、笹田委員をお願いすることにご異議ございませんでしょうか。

ありがとうございます。異議がないようですので、笹田委員に議長をお願いしたいと思

います。

続きまして、副議長についてご意見ございませんでしょうか。

笹田議長、お願いします。

○笹田議長

過去にこの教育委員会の委員も務められて、区政会議の委員でもある鎌田委員にお願いしてはどうかと思います。

○田窪係長

ありがとうございます。

ただいま笹田議長より鎌田委員にお願いしてはどうですかというご意見ございましたけれども、ほかにご意見はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

特にご意見ないようですので、鎌田委員にお願いすることにご異議ございませんでしょうか。

ありがとうございます。異議ないようですので、鎌田委員に副議長をお願いしたいと思います。

では、お二人とも、こちら前の席に移動をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、笹田議長、一言ご挨拶をお願いいたします。

○笹田議長

改めまして、議長に選任いただきました旭区PTA協議会会長をしております笹田でございます。

この教育会議は、区内の小・中学校をはじめとした旭区の教育に関わる大切な会議となっております。今後の子どもたちのために、区役所、地域、学校と連携したよりよい教育に向けた話し合いができる会議にしていきたいと思いますので、皆さん、ご協力のほうよろしくお願いいたします。

○田窪係長

ありがとうございます。

続きまして、鎌田副議長、一言ご挨拶をお願いいたします。

○鎌田副議長

すみません、度々申し訳ありません。会長共々、子どもたちが、先ほども申しましたけれども、健やかによりよい生活ができますように、子どもが成長した後も旭区でよかった



などと言えるような子どもたちになりますように願っておりますので、皆さんご協力のほどよろしくお願いいたします。

○田窪係長

ありがとうございました。

それでは、これより議題に入らせていただきますが、以降の議事進行は笹田議長にお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○笹田委員

それでは早速、次第に沿って進めていただきます。

議題の区の教育等関係事業について、事務局より説明をお願いします。

○山田課長

区教育担当課長、山田でございます。よろしくお願いいたします。

議題、区の教育等関係事業について、4年度の取組実績並びに5年度の取組予定についてご説明させていただきます。

資料はお配りしております資料1になりますので、資料1をご覧ください。

座らせていただいてご説明させていただきます。

資料1の①から⑭まで、各担当課長のほうから順番にご説明をさせていただきます。

資料に太字で記載している事業は令和4年度に新規で実施した事業、また、令和5年度に新規で実施を予定している事業になります。

それぞれ別添資料もおつけしておりますので、そちらも併せてご説明させていただきます。

なお、⑮から⑰の事業につきましては、局所管事業で区CMとして実施している事業になりますので、この場でのご説明は省略させていただきます。

それでは、初めに①から⑦まで、私のほうからご説明させていただきます。

まず、①から③が小学生を対象に実施している事業になります。

①のプログラミング体験学習事業です。こちらは令和4年度の新規事業となります。取組実績等につきましては別紙2の資料をご覧ください。

1枚目の下の段、1ページになりますけれど、目的、内容ですが、令和2年度から小学校でプログラミングの学習が必須になり、1人1台のタブレットが支給され、ICTを活用した学習が進められております。子どもたちがICTに親しみ、活用していくための取組をサポートするために、また、小学校の先生方の指導力向上につなげるために、区内に

あります大学、大阪工業大学の先生に小学校に出向いていただいて、小学6年生の理科の時間に教材を使用してプログラミングの体験学習を行いました。

ページめくっていただきまして、2ページ、上の段ですが、こちらが理科の教科書にも出てくる教材で、スタディーノという教材になります。プログラミングで指示をすることで電気がついたり消えたりするような教材で、1人1台の教材を区役所と教育センターにもご協力いただいて準備いたしました。

下の段の3ページ、こちらは小学校、大学、区役所、教育センターとの連携の仕組みを記載しております。

次の4ページ、上の段ですけれど、こちらのほうが、区内小学校、全部で10校、6年生20学級、それぞれで行った実施の一覧となります。

下の段、5ページは、スタディーノという教材を活用して体験学習を行ったときの様子となります。真ん中辺りに写真がついているんですけれど、区長が自ら学校で科学の進歩等について講話をされた様子です。子どもたちも大変関心を持っていただきまして、後につけておりますアンケートの感想のところにも子どもたちの感想も載っていますので、またゆっくりご覧いただきたいと思います。

1枚めくっていただきまして、次のページの上の段がオゾボットという教材を使って2校で実施したときの様子です。この教材は大工大の先生が子どもの数をお持ちいただきまして、1人1台を使って紙とペンでプログラミングができるという教材でした。

下の段、7ページは学校が所有していましたレゴEV3という教材を使ってやりたいというご希望がありましたので、その教材を使用して実施した様子となります。

それぞれの授業の内容や教材の詳細は資料に記載しておりますので、またお時間あるときご覧いただければと存じます。

続きまして、8ページが体験学習後の児童のアンケートの結果です。丸のグラフのところなんですけれど、楽しかったと答えた児童が98%、またやりたいが96%となっております。また自由記述の欄はお時間あるときご覧いただきたいと思います。

下の段、9ページですけれど、こちらが小学校の先生にアンケートを取った結果でございます。指導の参考になったとお答えになった先生、全員で100%という結果となりました。

次、めくっていただきまして、大学の先生にも感想をお聞きしております。事業を実施してよかったが100%、来年度の実施について88%ができるとお答えいただきました。お

一人の先生は、教材が使用できなかった場合は実施できないとの回答でございました。

最後のページは、実施しましたこの内容を多く区民の方にも知っていただくために、一番初めに実施した生江小学校の記事を広報紙あさひの6月号に記載したものでございます。

①の実績報告は以上となります。

続きまして、資料1に戻っていただいて、②の運動能力等向上サポート事業でございます。

こちらの事業は継続事業で、運動の専門的な技術を持つ専門家を派遣して、跳び箱や走り方やボール投げなど、運動能力等の向上をサポートするために実施している事業となります。小学校10校で実施をしております。

次、③の学力アップアシスト事業、こちらの事業は放課後の空き教室を活用して指導員を配置し学習支援を行うもので、こちらは小学校6校で実施しております。

今ご説明させていただきました①から③、小学校を対象に実施している事業につきましては、この表の右側になりますが、令和5年度も継続して実施してまいります。

続きまして、中学生を対象とした事業といたしまして④から⑦をご説明させていただきます。

④は、来年度から新たに事業の実施を予定しておりますプログラミング体験学習事業となります。こちら資料3をご覧ください。先ほど小学校の実績をご説明させていただきましたが、同様に、来年度からは中学生にも対象を拡大して実施してまいりたいと考えております。詳細の説明は省略させていただきますが、下のほうなんですけれど、中学生では3年生の技術でプログラミングの学習をしますので、写真を掲載しておりますアーテックロボという教材を区役所で準備させていただいて、大阪工業大学の先生に授業を実施いただくことを計画しております。

また、資料1に戻っていただきまして、⑤の体力アップサポート事業です。こちら来年度からの新規事業になります。資料4をご覧ください。目的ですが、ダンスの授業を通して体力向上を目指します。専門のインストラクターを派遣することで、興味関心、意欲を高め、楽しんで運動できることを実感させる機会を提供するものでございます。

続きまして、資料1に戻っていただきまして⑥になります。旭ベーシックサポート事業です。こちらは継続事業になります。中学生を対象に放課後の空き教室を活用して指導員を配置し学習支援を行うもので、4年度の実績は3校で実施していただいております。

続きまして、⑦民間事業者を活用した課外事業「旭塾」についてでございます。こちら

も継続事業で、放課後、民間事業者が学校の空き教室を活用して塾を運営するものでございます。令和4年度の実績は4校、全校で実施しております。

以上で、④、⑤は新規事業として、⑥、⑦は5年度も引き続き実施を予定しております。

私の説明は以上でございます。

○佐野課長

子育て体験教室について説明させていただきます。要保護児童対策地域協議会で、いわゆる児童虐待を扱っている会議です。発足当時は、児童福祉法や児童虐待防止法において対象が要保護児童だけが規定されていましたが、その次は親とか、どんどん事件が起こるたびに対象者が増え、特定妊婦というカテゴリーができました。妊婦のときから、例えば望まない妊娠で母子手帳を取りに来なかったりとか、あと飛び込み出産をするとか、そういう事件が多発して、そして0歳児、今、児童虐待で死亡率が高いのは0歳児、特に3か月ぐらいまでが一番多いのです。そんな中で、特定妊婦については旭区の中でも、多くなっている状況があります。昔は、例えば私が赴任した39年前、立て続けに中学生3人が子どもを産んだ。これは当時大事件だったのですが、金八先生の話、ドラマのフィクションの世界がもうリアルに入ってきたなということを驚きつつ実感したわけです。それが今はもうざらにありまして、特定妊婦を通常時で8名ぐらい旭区では見守っていますが、そうすることでいろいろ経験したら、実は特定妊婦のパターンでいくと、やはり母子家庭、一人親で若年、多児という、今の少子化の理由とした、高学歴、晩婚、少子化というのと全く逆のパターンの方たちがこっちのメインストリームにあります。詳しくみてみますと実はその特定妊婦のお母さんも若年妊婦ということで、2世、3世ぐらいになってきていまして、やっぱり経済力がないという面だけ見ても、非常に子どもを育てにくい状況があります。育てる力が弱い方が増えてきていますので、何とかならないかなと思って考えたのが子育て体験教室です。中学生の時に子育てするには環境がいること、その間、子育てが家庭の中心となり母や父は親として自由が利かなくなること。一方で子育てを楽しむ感覚も持ってほしい。思春期になっていく多感な時期に学んでほしいと思って考えました。

ただ、我々は行政なので、学校にはカリキュラムというのがあり、我々の考えを押しつけるということとはできないので、学校の先生のニーズを聞きながら、要望があればそこに出向いてこういう教室をしていこうということで考えています。今、要望があるのは、リアルケアベビーという、プログラミングで泣くAI、搭載の赤ちゃん人形を区として持

っています。何で泣くか分からないので生徒さんみんな慌てます。ですけど例えばおしめ替えたなら泣きやむとか、ある時はおしめ替えても泣きやまない、「何でや?」というたら今度はミルクが足らんかったとか、それでミルク飲ませたら泣きやむとか、そういうのがあって、マスコミでも取り上げられました。私的にはもうちょっと違う形で、私ども、保健師もいますし保育士も福祉職員もいますので、もう少しだけ総合的に何かやりたいとは思っていますが、一応先生方にも提案して今のところリアルケアベビーのほうに人気があるということで、それも子育て体験教室の一環ですが、そういうものを行っています。

以上です。

#### ○大前課長

続きまして、⑨番の旭区防災教育事業の説明になります。着座にて失礼します。

中学生の防災意識の向上や地域の防災力の向上、担い手の育成を目的として、防災教育プログラムに基づく防災教育等を実施します。こちらについては継続事業となっております。

今年度につきましては、10月に大宮中学校の1年生2クラスで実施、また、11月5日の土曜日に旭陽中学校で、1限目に全校生徒1年生から3年生を対象に防災教育プログラムを行い、2、3時間目に、地域の方、また旭消防署と協力の上、2、3時間目に防災訓練を生徒さん600人で行いました。1年生は、炊き出し訓練、アルファ化米を炊いて、それをみんなでおいにぎりにしてくれたということで、プラスアルファ、防災訓練も実施していただきました。

また、2月、先週ですけど、9日の木曜日には旭東中学校の1年生4クラスで、体育館に全員集まって防災教育プログラムを実施しました。

今市中学校につきましては、2月22日に、5、6時間目、2時間を使っていて、前半1時間で旭区における災害の想定等を学習していただいて、その次の時間につきましてはみんなでグループワークを実施してもらうという予定になっております。

私のほうからは以上です。

#### ○戸田課長

続きまして、資料1の⑩、あさひ育み学び舎事業についてご説明をさせていただきます。着座にて説明させていただきます。生活支援課長の戸田です。

あさひ育み学び舎事業は令和4年度から実施しております。新規事業となっております。基礎学力の定着を目的としたあさひ学び舎事業と、それから職場体験などによる職業観の

醸成を目的とした中・高生自立育み事業の双方の特徴を持ち合わせた新たな事業となっております。

経済的な課題を有するご家庭におきましては、学習環境や生活環境が整っていないことによって学力やコミュニケーション能力に影響が生じる場合が多く、結果、不登校や高等学校中退など、将来の社会的な自立を阻害する1つの要因となっております。

そこで、進学や就職など、自分の将来の生活についてイメージすることが難しくなっている中・高生に対して、安心できる環境によって知識や教養を身につけて、自らの選択によって将来を描くことができるよう学習支援と自立支援を行い、自己肯定感が高まるよう働きかけつつ、社会的自立を促進、支援することといたしております。

具体的な事業の中身についてご説明をさせていただきます。

資料5になりますけれども、あさひ育み学び舎事業は旭区社会福祉協議会に事業委託を行っており、高殿にある在宅サービスセンターの一室で実施しております。週に2回、月曜日と水曜日の午後6時半から8時半までの間、学習サポーターによる学習支援を行っております。基本的には集団学習となっておりますけれども、状況によってはマンツーマンで対応することもあります。また、土曜日におきましては、午後2時から5時までの間、同じ在宅サービスセンターの一室を設けて、自習できるように部屋を開放しております。このほか、月に1回程度の調理実習、2カ月に1回、年間6回程度の、将来の夢をかなえるための支援としまして区内の職業人による講義や現場実習等を行っております。

このほかとしましては、ハローワーク梅田のご協力を得まして、東大阪高等職業技術専門学校において体験実習をさせていただいております。令和4年度の実績につきまして、登録者は37名となっております。うち、中1生が4名、中2が4名、中3が3名となっております。その他高校生の登録者は26名。常時来ておられるのは、2、3名ほどが来られているということです。

3月には、新中学校1年生の事業周知を兼ねまして、旭区内の10か所の小学校にご説明にうかがわせていただく予定としておりまして、4月に入りましたら、区内の4か所の中学校、同じような事業説明で回らせていただく予定としております。

私からご説明は以上でございます。

○佐野課長

続きまして、私のほうから資料1の⑪番、こども食堂ネットワーク事業、この事業は名前にいろいろ変遷がありまして、予算措置として55万5,000円となっております。これは、

学習支援とかを、主に支援員を派遣するという事業です。もともとは貧困対策ということで、当時、吉村市長が重点予算をあげるから区で何か手を上げてくださいということで、確か小山課長の時にこども食堂学習支援事業というのを立ち上げました。

ただ実際、立ち上げてすぐ私にバトンタッチしたわけですが、やっぱり現場の意見を聞くと勉強よりも楽しんでいるほうが多いということもありまして、あと、当時まだネットワークに参加していたこども食堂が旭区に5つぐらいしかなかったのも、もっとネットワークに力を入れていこうということで、こういう事業名に変更しました。

ネットワークに力を入れるとはどういうことかといいますと、まず、こども食堂を単なる貧困対策として位置づけない、基本的には子どもの居場所づくりと位置づけています。実は本来広義の貧困の一つで、ソーシャルキャピタル(近隣や友人等、つながり)に関係します。経済的というよりも、どちらかという、信頼できる地域の大人としゃべったり、子どもたちが楽しくそこで過ごせる居場所をつくりたい、その場所を増やしていこうという取組に変わってきまして、もちろん、毎週、学習支援もやっているところもあって、成果も出てきていますが、区役所としましてはどんどん子どもの居場所を広げていこうということで、こども食堂の運営ノウハウをこのネットワーク会議で、例えば食材をどこで集めたらいいのかから始まり、資金繰りどうするのかというのをネットワーク会議の中で2か月に1回やっています。あと、我々が支援を始めた頃は、区民の方から「こども食堂、何かややこしいところ行ってんな」という電話もありました。その頃はまだ、こども食堂に偏見がありましたので、偏見をなくするためには区役所と一緒にやっていると、「安全なところですよ」という区民に対してアピールする、行政も一緒にやっていると見える化することによって区民にも安心感が広がって偏見が取れてくると思ってネットワーク強化を進めてきました。

そういうことで、今、旭区内に15のこども食堂があります。ホームページ上は13になっていますが、写真を送ってくれていないので掲載できていません。当初、こども食堂が5団体のときは「10校下すべてに子ども食堂を！」目標にしていました。それが10校下以上になってきましたし、そして参加人数も、最初始めた頃には5人とか非常に少ないところもありましたが、今は1回に90人も参加するところとか出てきていまして、100食以上を配っているところもあつたりとか、こども食堂が旭区では、ネットワーク事業を通じてお互いで、今、我々にも、日曜日でもLINEで連絡が来ますが食材をどこかでもらったから、ジャガイモ10箱あるから取りに来ませんかとか、そういうネットワークになってい

まして、本当に旭区ではこども食堂がやりやすいと、そういう事業をやっているということです。

以上です。

○松原課長

地域課、松原です。

私からは、⑫番「はぐくみネット事業」、⑬番「生涯学習ルーム事業」、⑭番「学校体育施設開放事業」についてご説明いたします。

皆様方には、コーディネーター、それから運営委員会等でお世話になっております。ありがとうございます。

本3事業につきましては、学校と協力し、学校の教育に支障のない範囲で実施している事業でございます。この間、新型コロナウイルスの影響でかなり活動に制限がかかっておりましたが、最近ようやく活動が動き出してきて、各校下ともそれぞれ何か事業をしていたっている状況になっております。

来年度につきましても引き続き、今年度と同じ予算、手法で事業を実施していただきたいと思っております。

以上でございます。

○笹田議長

ありがとうございました。

ただいまの説明でご意見、ご質問があればお受けします。

なお、必ずお名前を名乗られてからご発言いただきますようお願いいたします。

それでは、すみません、僕のほうから1つ。

こども食堂のネットワーク、大変いい事業で、進めていってもらいたいなとはもちろん思っているところなんですけども、今14ということでお話をお聞きしたんですけども、各校下に1つ、もしくは2つという状況なのでしょうか。

○佐野課長

そのとおりです。全校下にあります。だから2～3団体あるところがあります。

○東中区長

こども食堂さんに関連してですけど、実は先日、とある鳥肉屋さんに区長から感謝状も送らせていただいたんですけど、唐揚げを定期的に、子どもさんたちは、お肉も食べ盛りだということで、届けていただいたりしております。



ほかにもそのとき、そのときで、ご厚意を地域の皆様、あるいは店舗の皆様から頂戴をしている、そうした本当にありがたい善意で運営がされている、そのネットワークが徐々に広がりをおかげさまで見ているという状況でございます。大変ありがたいことございまして、感謝を申し上げたいと思います。

○笹田議長

宮城委員、お願いします。

○宮城委員

宮城でございます。

質問なんです、⑩番のあさひ育み学び舎事業なんですけれども、令和4年度から始められたということで、実際の対象といいますか、参加された中学生、高校生の声はどんな声が上がっていますか。大変来てよかったとか、そういった声を聞かせていただけたらと思います。

○戸田課長

今日お越しにいただいている齋藤委員さんが実際に学習コーディネーターということでやっていたんですけれども、感触なんですけれども、楽しそうに、皆さん、やってくれるんです。ただ、やっぱり中学生、高校生の方って、表立って楽しいとかということはあまり言われないんですね。ただ、いろいろ事業をやってアンケートを取るとよかったなという意見が非常に多いので、充実されていると思います。

あと、参加率も、高校生は一定の様子見ということで登録をさせていただいているところなんですけれども、中学生の参加率は非常に高く、お休みされる方については、どうしたのということで声かけをさせていただいたりとかして、極力の参加を促しています。

ただ、もうほぼほぼ参加していただいているような状況です。納得いただいているものと思っております。

○宮城委員

ありがとうございました。

○東中区长

今のあさひ学び舎の件も、令和4年度から現在の総合的な形で新しくスタートをしたということで、課長のほうからご説明させていただきました。これはもともと、勉強系のほうと、人生、仕事というような系統のほうと大きく2つに分かれていたんですけれども、総合的にしっかりと社会で頑張って生きてもらおう、その力を育む、その居場所とい

うことで、大きく学び舎という形で総合的にという形で、令和４年度に組立てを総合的に変えさせていただきました。それは現代の、いろんな総合力を育てるという方向とも合致するということで、現在の令和４年度からの形にさせていただいております。

子どもたちには、勉強をなぜするのかといえば、やっぱりみんな頑張って生きていこうねと、じゃ何で生きていくのかなと、やっぱり人間というのは学ぶということが大事だよ、そういう学ぶということと生きていくということが分かれている状態なのではなくて、それが総合的に大切なことだなということを分かってもらおうと、少しでも伝えたい、そういう居場所というのを区としてご用意したいなと、一緒に運営をしていただきたいなと、そうした思いで令和４年度から始めさせていただいております。

ちなみにこの学び舎は24区で旭区だけです。こういう形での運営は旭区だけの本当に誇れる、旭区だけというのがほかにもさりげなくあるんですけども、とりわけこの学び舎も旭区の本当に誇れる温かい取り組み、これからもしっかりと続けたい、そのように思っております。

○齋藤委員

すみません。一応学び舎事業に参加させていただいている者として一言言わせていただきたいんですが、平成27年ぐらいか、もう7年、8年、発足してからなっており、

○佐野課長

平成26年度の7月開講です。

○齋藤委員

すみません。その当時から、佐野課長のときからだったんですが、そのときから子どもたちもどんどん変わってきました。最初はもう暴れている子ばかりでどうしようか思っていたんですけど、今はとても静かで素直な子が多いんです。ですが、経験のなさから普通の会話で覚えられることが全然覚えていない、勉強としてしか覚えられていないことがあって、例えば国の名前とか外来語とか、お父さん、お母さんと話していたら普通は覚えらるであろうことが経験がないために、お母さんが忙しいからうちにおられないのか子どもと対する時間がないからなのか。だからそういうことがないので私たちサポーターと一緒に話し合いながら勉強、本当、令和４年になってほっとしていたんです、その前まではとにかく成績を上げろ、上げろだったんでそれはちょっと無理かな、でも話していることがとても重いので聞いてあげなきゃいけない。私たち、ものすごい人生が深いことを言ったりするんです、だからやっぱり聞いてあげなきゃなとか思いながら、令和４年度でち

よっと方向転換になったので勉強をちょっと横に置いてでも。うるさいと勉強する子には言われるときもあるんですけど、聞いてあげられたらなと思っているんです。ですから、いろんな体験をしながら話してもらって。経験がないために自分が何になりたいかが分からないので、だから夢が持てないみたいなので、いろんなところへ行かせてもらっている人のお話を聞いて、サポーターさんも最近は大学生が増えたのでお兄ちゃんの身近な声とか、私らみたいに年いった者の、ですからお母さんみたいな怒り方はしないでおこうと思って、聞く場、聞いて認めるということにはしているんですが。コロナの関係でなかなか生徒さんが増えなかったんですが、これから3月、4月、増やしていただけたらなと思っています。よろしくお願いします。

○東中区長

ありがとうございます。4年度からの方向、ご賛同いただけていまして大変うれしく思います。

先ほど課長からのご説明にもございました、実はハローワークさんとのタイアップというのも4年度から試みを始めさせていただいたところです。ハローワークさんというと何か仕事せえみたいな圧力をお感じになる向きももしかしておありかもしれませんが、ハローワークさんの、国のほうも最近そうではなく、やはり若い人たちの就業意欲の向上は、これすなわち将来にわたって自分の人生をよりよく生きていくことだ。だから仕事も一緒にいい仕事をしましょうよと、そういう流れにハローワークさんも大きく転換されております。ハローワークさんを見学に行きますと、若い人たちにも自分の人生を仕事を通して生きて欲しいんだという熱い思いで、じゃあ学び舎とハローワークさんで、タイアップ、1回試みてみようかというのが4年度から始めたことでございます。参加人数はそんなに爆発的に人数が上がっているわけではないんですけども、この火を絶やさずにつなげるということがやはり大切な、いざというときの居場所のベースになり得ると、区としてはそういう思いで今後も続けたいと思っています。どうか、お力添えを今後もよろしくお願いします。

○笹田議長

鎌田委員。

○鎌田副議長

すみません、お時間ないのに。私は、佐野課長の子育て体験教室の中学生のお話を聞いてふと昔のことを思い出しまして。我が家のことで申し訳ないんですけども、今34歳

の娘が小学校4年生のときに、お母さん、クリスマスプレゼントに赤ちゃんが欲しいと言ったことがあって、たまたまそのときに今23歳の息子が生まれたんです、生まれるというかおなかに入ったんですけれども。クリスマスプレゼントに赤ちゃんが欲しい、何でと、かわいいから、で生まれました、それからしばらくしたら、お母さん、赤ちゃんなんかもう要らんと娘に言われました。何でと言ったら、やっぱり熱を出したり、おなかすいて自分たちが何かしたいときに大泣きされたりとかそんなして、何かすごいもう大変だということがすごい分かったと、だからお母さん、赤ちゃんなんかもう要らんわと言われて、えーと思ったんですけれども、でも中学生がいろんなそういう体験を、ただ、赤ちゃんって、よその赤ちゃんはかわいいけれども見ているだけやから、でも実際に扱ってみるといろんな、熱を出したりおなかすいて、はい、おむつも替えないといけない、熱も出す、いろんなことがあると。かわいいだけではないという体験をやっぱり小学校、中学校からしておくべきだということをそのとき本当に思ったので、だから今回のこの中学生の体験というのはすごいいいことだなとつくづく思いました。

その娘はもう14年間保育士をしております。それもまたびっくりなんですけれども。だからぜひ中学生のみならず、もうちょっとすると低年齢化して小学生にも体験をしないといけない時期になるのかも分かりませんが、この事業はぜひ継続してやっていただけたらありがたいかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

○笹田議長

よろしいでしょうか。

以上で予定されていた議題は終了しました。

小学校、中学校から幹事校長先生、指導部から指導主事の方々がお越しいただいておりますので、何か一言でもご発言いただけたらと思います。よろしくお願いします。

○山本校長先生

それでは失礼いたします。小学生のことということですので、実際に目にしましたのは①番、②番、③番というような形になってくると思います。

プログラミング体験学習のほうは、非常に専門的なお話を非常に分かりやすくしていただいて大変子どもたちも喜んだというふうな学習でした。それから、運動能力の向上サポート事業というほうは、こちらのほうは学校の授業とは違いまして、専門的な経験、それから技術を持つ専門家のコーチング、アドバイスによって子どもたちがぐっと運動に対する技術が上がるとか、そういうような体験もさせてもらいましたし、非常に小学校は授業

とはまた違った切り口でサポートしていただいているというふうには感じておりますので、また来年度も続いてということを聞いておりますので、またよろしくお願いしたいなと思いますし、ありがたい気持ちでおりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○赤坂校長先生

失礼します。

中学校のほうも来年からプログラミングが始まったり、ダンスの教室であったりとか、また、防災のほうは市大の先生に来ていただいて、とりわけ本校では、旭区の中での災害について学習して頂いており、身近な話題でしていただいたので、非常に子どもたちには力になっているかなと思います。学校がちょっと困っているかな、もうちょっと欲しいなというようなところなど、いいところを支えていただいているので、非常に感謝しております。また来年度もよろしくお願いします。以上でございます。

○荒井指導主事

失礼いたします。

旭区の中にも、様々な支援を求めておられる児童・生徒・保護者の方もいらっしゃると思います。そのような方々が孤立しないように、先ほどのお話の中でも居場所づくりという言葉もたくさん飛び交っていたかと思います。学校、教育委員会、それから区役所、地域の皆様が連携をして、区長のお話の中にも、温かいという言葉がたくさん出ておりましたが、皆さんで連携して温かい旭区の教育を支えていけたらなと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○長谷部指導主事

失礼いたします。

本日は旭区の様々な事業について知ることができ、大変有意義な時間となりました。ありがとうございました。

旭区のキャラクターにしょうぶちゃんがあります。笑顔がすてきなしょうぶちゃんです。様々な事業のその先に子どもたちのしょうぶちゃんのようなすてきな笑顔が見える、そういう事業の数々だなというふうに思い描くことができました。

教育委員会としても皆さんと一緒に連携して取り組んでいけたらと思います。応援したいなと思いました。本日はありがとうございました。

○直本指導主事

失礼いたします。

本日、どうもありがとうございました。以前、区長様とお話させていただいたときに、旭区の教育関係の事業というのは、旭区の子どもたちにとって何が必要なのか、よりニーズに応えたものでありたいという思いをお聞かせいただいたことを印象的に覚えております。

今日、様々な事業のお話いただきましたが、まさに旭区の子どもたちにとって何が一番必要なことなのか、体験が欠けているというお話もございましたけれども、経済的な要因によって子どもたちが受けられる教育に差があってはいけないということも当然でございますし、本当にいろんな子どもたちが様々な経験を踏まえていく中で夢を持って過ごしていけるようにという思いが全て表れた事業であるのではないかなというふうに感じております。

教育委員会としまして、第2教育ブロックのほうでも、様々な施策が講じられておりますが、そこだけでは拾い切れない部分というのもたくさんございますので、今後とも連携を大切にしながら、子どもたちのために大切な事柄をたくさん進めていけるように努めてまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○笹田議長

皆さん、活発なご意見、ありがとうございました。

それでは進行を事務局にお返しします。よろしくお願いいたします。

○田窪係長

笹田議長、進行ありがとうございました。鎌田副議長をはじめ委員の皆様も、どうもありがとうございました。

本日の会議は以上となりますけれども、会議の終了に当たりまして旭区担当教育次長よりご挨拶を申し上げます。

○東中区长

改めまして、本当に、遅い時間にお忙しい中、ありがとうございました。また、大変お心の籠もったご意見もいただきまして、重ねて感謝を申し上げます。

旭区内の子どもさんたちにとって良かれというこの1点、ここで、大人の側というのもそれぞれいろんな立場、いろんな役割というのはあるわけでございますけれども、子どもさんたちに良かれというこの点において、一番強力につながり得るところである、そのよ

うに本当に感じます。また、旭区はよりそうしたすばらしい温かいところであると存じております。

地域の皆様方、どうぞお力添えを賜りますよう、また、学校さん、教育委員会さんもどうか様々に、毎日お忙しく、しんどいお立場もあろうかとは存じますけれども、どうか子どもさんたちのために共に力を合わせて今後とも取組を賜りますよう何とぞよろしくお願い申し上げます。

今後ともまた様々にお気づきの点ございましたら、特に地域の皆様、いろんな関わりでふだん街角でもお会いさせていただきますので、どうか今後ともよろしくお願い申し上げます。皆様本当にありがとうございました。

○田窪係長

それでは、これをもちまして本日の令和4年度第1回旭区教育会議を終了させていただきます。

お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。